

# 株式会社ジェイコム湘南・神奈川

## 2024年度 放送番組審議会 議事録

2024年度の放送番組審議会は、2025年3月14日(木)に開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

新井 鷗子 様	亀井 泰人 様	菊嶋 秀生 様
永妻 和子 様	安田 震一 様	山崎 雅文 様
芳澤 一夫 様		

事業者側から会社の現況に加え、J:COMチャンネル(11ch)とJ:COMテレビ(10ch)の放送内容について報告があった。

次いで、審議に入る前に、放送番組審議会規程第3条に基づき、事務局より会長の互選を要請したが推薦および立候補はなかった。そこで、事務局より安田 震一 委員を会長に推薦する案を提案したところ、他の委員から異議はなく、安田 委員が会長に就任した。

【質疑応答・意見交換】(安田会長による進行)

**委員** ベイスターズの優勝パレード放送について、地域の熱量を発信・共有できる取り組みでとても良いと感じた。一方で、他局も同時に放送していたが、J:COMとしてどういった狙いをもって放送したのか教えてほしい。

**事業者** J:COMとしては、他局が生放送しなければ生放送でという予定だったが、結果他局については生放送が決定したため、こちらは収録で、地元密着の情報番組「ジモトトピックス」にて放送した。

**委員** J:COMと神奈川県内を放送エリアとする地上波TV放送事業者とでは、エリアやコンテンツがどうしても同じになることがあるが、J:COMが違いとして意識している取り組みなどはあるのか。

**事業者** わかりやすい例として選挙がある。統一地方選挙や参議院選挙など、横浜市長選挙や神奈川県知事選挙だけではなく、J:COMとしては人口規模が小さい行政の市長選

挙や定期選挙などの配信も積極的に取り組んでいる。

また、仮に同じコンテンツになってしまっても、なるべくぶつからない編成を組むなど工夫している。

**委員** J:COMが放送する防災・防犯に関する番組「こちらJ:COM安心安全課」について、J:COMのネットワークを使ってこういったものを放送していくことは、防犯意識などの向上にもつながると感じる一方、プライバシーや警察との関係など、諸々注意が必要な側面もあると考える。このあたりをもう少し詳しく聞きたい。

**事業者** J:COMは防犯カメラサービスを販売している経緯もあり、地域の方々がどういった取り組みをしているのかに焦点を当てて、レギュラー番組や特番などで取り上げている。自治体としては防災に関して、悩みを抱えているところも多くあるため、「ほかの自治体はこんなことをやっています」など、フィードバックできる関係性になればより両者の関係性も深まってくるのではないかと期待している。

**事業者** J:COMでは、番組制作だけではなく、地域の安心安全にフォーカスし取り組みを進めている。

我が国は災害大国であり、近年ではいわゆる「闇バイト問題」など、警察も特に力を入れているテーマについて、J:COMがメディア事業者として協力できれば、より一層地域にとって有益な情報発信ができるのではないかと考えている。

実際に「番組を見て気づきがあった(学びとなった)」という声も多く寄せられている。この先も、J:COMとして地域の方々にとっての安心安全につながる取り組みを進めたい。

**委員** 放送・配信を使って、放送だけではなくネットワーク作りにまで関与していくことがJ:COMの強みだと思う。その一方で、圧倒的にアートに関する放送が少ない。開催者側からJ:COMへのプッシュが弱いのか、どうなのか聞きたい。

**事業者** 開催者から情報は常にいただいているので、開催者側からのプッシュが弱いということはない。ニュース価値等の観点から、アート(芸術)に関しても大きいイベントについての放送が多いのが実情。小規模なイベントについて単独で番組は組まず、地元密着の情報番組「ジモトトピックス」などで主に取り上げている。

長い時間で紹介できるものがあれば、さらに特番で取り上げていくことも来年度検討していく。

**委員** 芸術が社会問題の解決につながっていくものも多々あるため、より検討していただきたい。

**委員** 災害時、音声で情報を伝えていく地域のラジオ局やコミュニティラジオがどんどん縮小してきている。J:COMとしてバックアップをお願いしたい。

**委員** 以前、J:COMが行った防災放送訓練にコミュニティラジオ関係者が見学したり、当該コミュニティラジオ番組にJ:COMの制作スタッフが出演し、J:COMがどのような取り組みをしているかを話した、などの事例もある。今後もこうした協力関係を継続すべきと考える。

**委員** J:COMの放送エリア外ではあるが箱根地域には多くの外国人が訪れており、発信することによってさらに盛り上がってきている。J:COMとして海外向けの取材、発信をしていただきたい。

**事業者** 一部の番組で、英語での放送に取り組んだほか、SNSについても、英語や中国語での発信を今後していく計画も一部あるので、徐々に本格的に取り組みを広げていければと考えている。

**委員** 箱根地域など、J:COMの放送エリア外の事柄に関しても協力いただける機会を検討していただければと思う。

**委員** 行政は発信力が弱い中、J:COMはたくさんの情報を地域に届けてもらって感謝している。一方で、SNSの発展が様々な問題を生んでいる。SNSに関して、J:COM側としてリスクをどのように考えているかを聞きたい。

**事業者** SNSの更新は、担当者だけではなく承認者がチェック・承認した後にアップというダブルチェック運用を徹底している。  
J:COMとしてもSNSを更に活用すべきだが、同時にリスクを最小限にすることも大事だと考えている。

**委員** 大学生が取り組んでいる地域密着のイベントをJ:COMの番組等で取り上げることは可能か。

**事業者** 実際の取り組みを、「こちらJ:COM安心安全課」のトピックスとして扱うこともあれば、「ジモトトピックス」内のイベントとして紹介するなど形態は様々だが、現在も多く取り上げている。

**委員** 学生からすると、インタビューなどで出演することが就職活動に繋がるというメリットもある。とても良い取り組みだと思うので、引き続き続けてほしい。

**事業者** 多くの貴重なご意見をいただいた。今後のコミュニティチャンネルの映像制作・放送に活かせるよう検討していく。

以上